

柏市

一般廃棄物処理基本計画

概要版

令和5年3月策定 計画期間：令和5年度～令和14年度

1 計画策定の基本的事項

計画策定の趣旨

本市では、平成24年3月に「柏市一般廃棄物処理基本計画<スリムかしわ～豊かな環境の継承のために～>」を策定しました。また、平成29年3月には、中間見直し(前計画)を行い、一般廃棄物の排出量の抑制と適正な処理等に取り組んできました。

このような中、世界ではSDGs(Sustainable Development Goals:持続可能な開発目標)の考え方に基づき、持続可能な社会の実現に向け、各国が協力して取り組んでいるところです。また、プラスチックごみや食品ロス等への関心が高まっており、廃棄物を取り巻く情勢は大きく変化してきています。

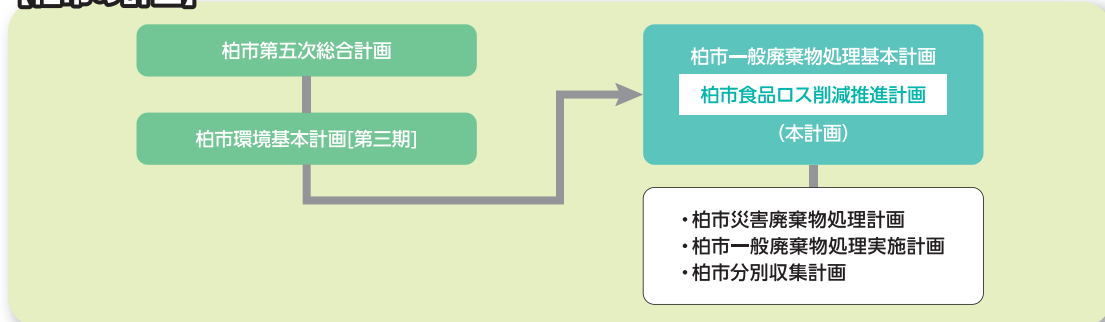
本市ではSDGsに取り組むことを「地方公共団体の業務そのもの」と捉えるとともに、令和4年2月には「柏市気候危機宣言～ゼロカーボンシティへの挑戦」を発表するなど、行政計画も大きく変化しています。これらのことを踏まえて、前計画を全面的に見直し、新たに「柏市一般廃棄物処理基本計画」を策定するものです。

計画の位置付け

本計画は、廃棄物処理法第6条第1項に基づく一般廃棄物処理基本計画として位置付けられ、上位計画である「柏市第五次総合計画」、「柏市環境基本計画[第三期]」で掲げている一般廃棄物処理行政分野における計画事項を具体化するための施策方針を示す、一般廃棄物処理に関する最上位計画です。

なお、本計画の策定に当たっては、柏市災害廃棄物処理計画との整合性を図るものとします。

【柏市の計画】



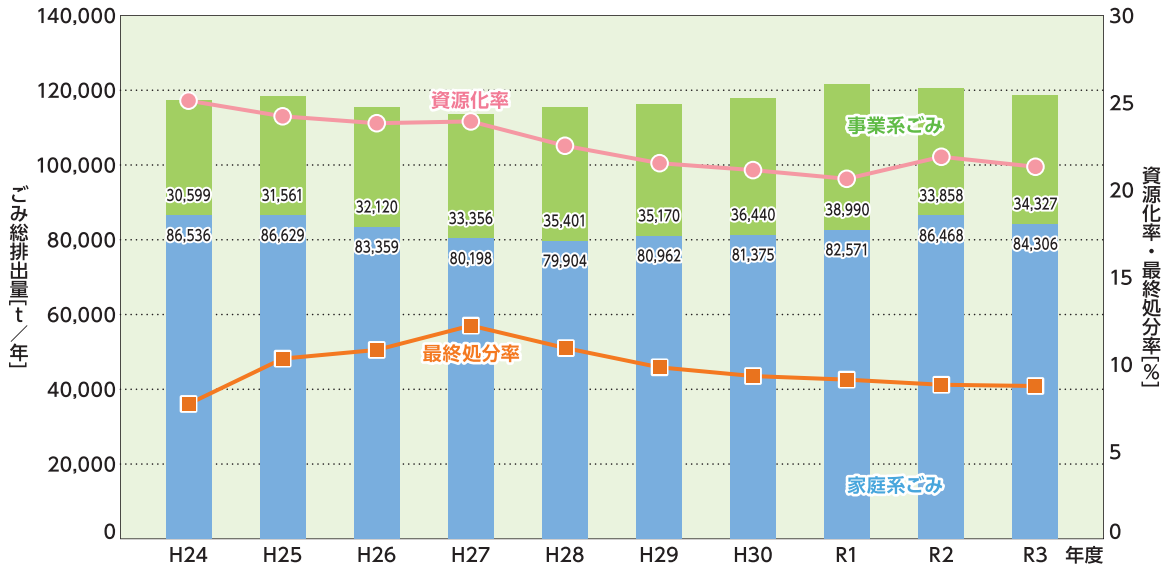
計画対象地域

本計画の対象となる地域は、合併前の旧沼南地域を除く旧柏地域とします。

2 柏市のごみ排出状況

ごみの排出状況

ごみ総排出量は、平成27年度を底に増加傾向にあります。令和元年度以降は減少に転じています。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、家庭系ごみは増加し、事業系ごみは減少していましたが、令和3年度は、家庭系ごみは減少し、事業系ごみは増加に転じています。



単位：t/年(資源化率・最終処分率%)

区分	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
家庭系ごみ	86,536	86,629	83,359	80,198	79,904	80,962	81,375	82,571	86,468	84,306
事業系ごみ	30,599	31,561	32,120	33,356	35,401	35,170	36,440	38,990	33,858	34,327
ごみ総排出量	117,135	118,190	115,479	113,554	115,305	116,132	117,815	121,561	120,326	118,633
資源化率	25.1	24.2	23.8	23.9	22.5	21.5	21.1	20.6	21.9	21.3
最終処分率	7.7	10.3	10.8	12.2	10.9	9.8	9.3	9.1	8.8	8.7

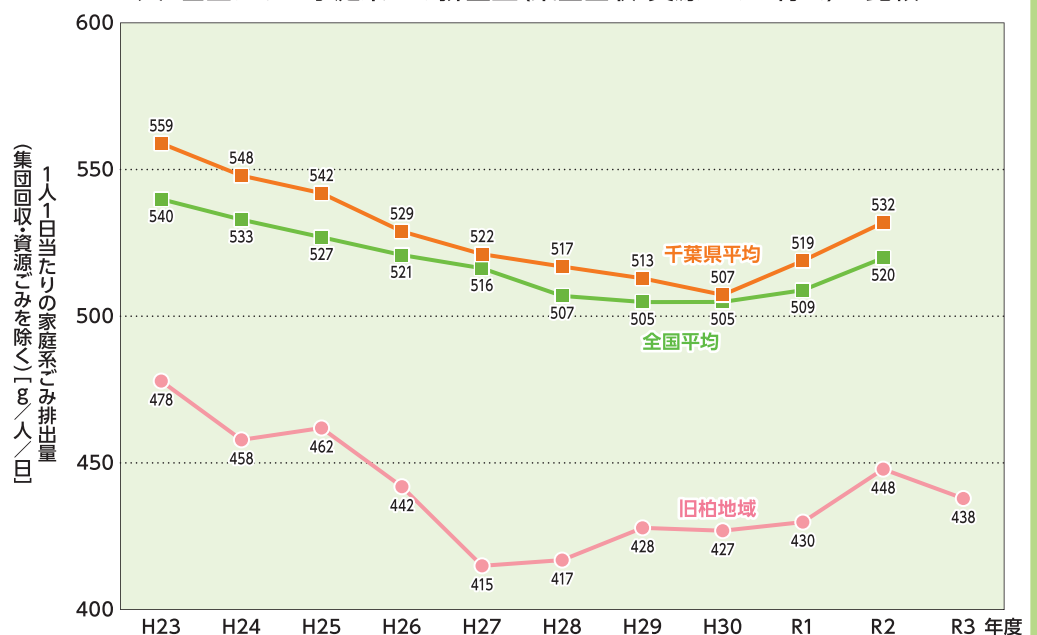
出典：柏市清掃事業概要(柏市環境部)

コラム

家庭系ごみ排出量は、増加傾向だけど、全国平均や千葉県の平均と比べると低い状況にあるよ。



1人1日当たりの家庭系ごみ排出量(集団回収・資源ごみを除く)の比較



出典1)旧柏地域：柏市清掃事業概要(柏市環境部)
出典2)全国及び千葉県：一般廃棄物処理実態調査結果(環境省)

3 計画の基本理念と基本方針

基本理念

本市においても、今後は、市民、事業者、行政などの多様な主体が互いに連携し合いながら、循環型社会と脱炭素社会が両立した、環境に優しい持続可能なまちづくりを進め、将来世代に引き継ぐことが重要になっており、次のように基本理念を設定します。

サステナシティ「かしわ」の実現 ～持続可能な循環型社会の次世代への継承～

基本方針

基本理念に基づき、基本方針の考え方は次のように設定します。

これまでの3Rに新たなRの概念「リフューズ(発生回避)」を加え、さらに推進

【基本方針Ⅰ】
3R+Rの
さらなる推進

ごみの発生回避(リフューズ)、排出抑制(リデュース)、繰り返し使う(リユース)、再資源化(リサイクル)の順で徹底することにより、さらなるごみ減量・リサイクルを推進する。

実践者である市民や事業者との連携強化

【基本方針Ⅱ】
ごみに関わる
多様な主体の
連携・協働

ごみ減量等の実践者である市民・事業者・市民団体、ごみのもとを製造販売する事業者、処理リサイクルに係る事業者、行政等の連携・協働を推進する。

ごみの安定処理の体制づくりを推進

【基本方針Ⅲ】
環境に配慮した
安全・安心で安定的な
処理体制の推進

発生したごみを環境に配慮しつつ、安全・安心・安定的に処理するために、平時はもとより災害時にも迅速かつ適正処理ができる体制を構築する。

コラム 3R+R

循環型社会の代名詞である3RにRefuseを加えて、3R+Rとします。本市では、自らの意思でごみにしないRefuse(+R)を最優先していきます。

3 R	Reduce	リデュース	ごみにしない
	Reuse	リユース	何度も使用する
	Recycle	リサイクル	資源にして使用する
	+		
R	Refuse	リフューズ	ごみとなる不要なものを断る

ごみとなる不要なものを断ります。



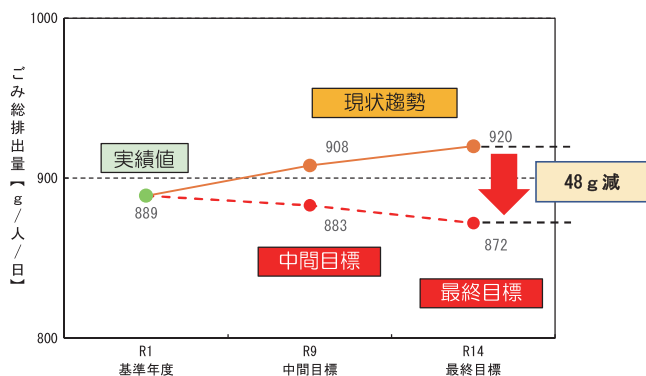
4 計画目標

これまでの本市の取り組みを考慮して、今後、市民や事業者のみなさんと取り組むべき、ごみ排出量および総資源化率等の計画目標を設定しています。

目標項目	基準年(R1)	将来推計(R14)	目標(R14)	
1人1日あたり 総ごみ排出量	889g	920g	872g	基準年比 △17g
				将来推計比 △48g
1人1日あたり 家庭系ごみ排出量	430g	432g	418g	基準年比 △12g
				将来推計比 △14g
総資源化率	20.6%	16.6%	22.0%	基準年比 +1.4%
				将来推計比 +5.4%

計画目標(削減量・資源化量)と考え方

総ごみ総排出量



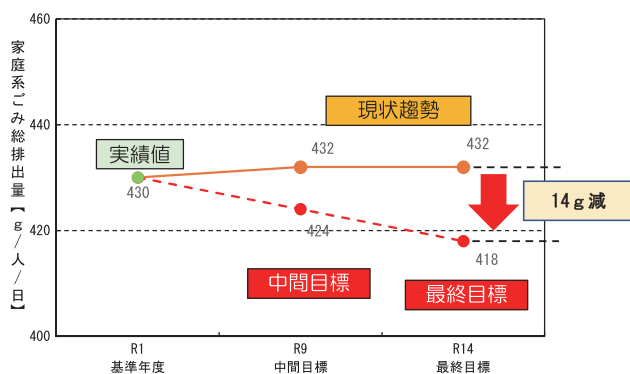
【目標値の考え方】

将来推計(現状趨勢)から
→48g/人/日削減
令和元年度実績から
→17g/人/日削減

17g削減するには
いちご1.4粒食べきり



家庭系ごみ排出量(資源ごみ除く)



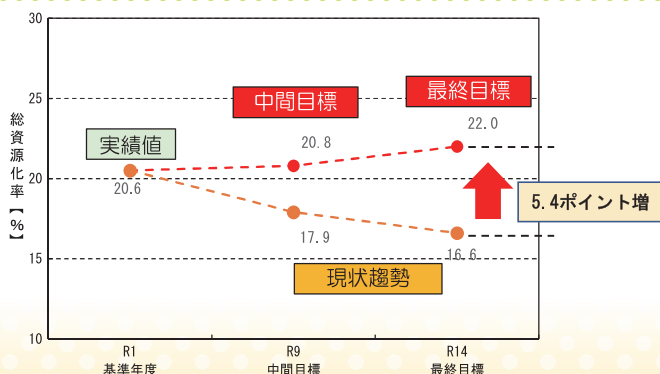
【目標値の考え方】

将来推計(現状趨勢)から
→14g/人/日削減
令和元年度実績から
→12g/人/日削減

12g削減するには
いちご0.8粒食べきり



総資源化率



【目標値の考え方】

将来推計(現状趨勢)から
→5.4ポイント増加
令和元年度実績から
→1.4ポイント増加

※ 現状趨勢: 現在のごみ減量化施策のみを継続した場合に予測される数値です。

5

施策の体系

基本理念、基本方針に基づき、計画目標値の達成に向けて、市民・事業者のみなさんと協力しながら実施する基本施策を設定しています。

基本方針	基本施策	主な施策	重点
<p>【基本方針Ⅰ】 3R+Rのさらなる推進</p> <p>3R+R リフューズの推進 リデュースの推進 リユースの推進 リサイクルの推進 さらなるごみの減量化 リサイクルの推進</p>	<p>【基本施策Ⅰ-1】 ごみを出さない取組</p>	①リフューズの推進 (ごみとなる不要なものを断る)	使い捨てプラスチック類の削減 【家庭系】 ■
			レジ袋兼用指定ごみ袋の導入 【家庭系】
		②リデュースの推進 (ごみにしない)	食品ロスを含む家庭系生ごみの削減 【家庭系】 ■
			多量排出事業者におけるごみ減量の推進 【事業系】 ■
			民間事業者との連携による減量化 【事業系】 ■
	搬入物検査による指導の強化 【事業系】		
	<p>【基本施策Ⅰ-2】 ごみをごみにしない取組</p>	①リユースの推進 (何度も使用する)	ごみ処理手数料の見直し 【事業系】 ■
			家庭系ごみ有料化の導入研究 【家庭系】
		②リサイクルの推進 (資源に戻して使用する)	柏市リサイクルプラザリポソ館におけるリユースの推進 【家庭系】
			リユースアプリ等による民間事業者との連携 【家庭系】
ごみと資源の分別徹底 【家庭系】			
	家庭系プラスチック類の資源化 【家庭系】 ■		
	事業系食品廃棄物等の資源化 【事業系】		
	焼却灰の資源化		
	各種リサイクル法に基づくリサイクル推進 【家庭系】		
<p>【基本方針Ⅱ】 ごみ処理に関わる 多様な主体の連携・協働</p> <p>連携・協働 市民・事業者 市民団体 製造・販売事業者 ごみ処理・リサイクル事業者 行政(市)</p>	<p>【基本施策Ⅱ-1】 ごみの減量化・リサイクルに関する情報発信の強化</p>	①家庭系ごみの減量化・リサイクルに関する情報発信の強化	家庭系ごみ減量化に関する情報発信 【家庭系】
			柏市リサイクルプラザリポソ館事業の拡充 【家庭系】
			家庭系古紙類のリサイクル推進 【家庭系】 ■
			環境教育の充実 【家庭系】
			転入者への情報発信 【家庭系】
	②事業系ごみの減量化・リサイクルに関する情報発信の強化	外国人への対応充実 【家庭系】	
		情報発信手法の充実 【家庭系】	
		地域との連携・協働 【家庭系】	
		事業系ごみ減量化に向けた効果的な情報発信 【事業系】 ■	
		3R推進事業所・3R推進店推奨制度の拡充 【事業系】 ■	
<p>【基本施策Ⅱ-2】 適正処理のための協働</p>	①地域との連携・協働	事業系古紙類のリサイクル推進 【事業系】 ■	
		食べきり協力店制度の導入 【事業系】	
		ぼい捨ての防止	
		不法投棄対策の推進	
<p>【基本方針Ⅲ】 環境に配慮した安全・安心で 安定的な処理体制の推進</p> <p>安定的な処理体制 平時における適正な処理体制の確保 災害時における迅速かつ適正な処理体制の確保 安定的な収集・処理の実施</p>	<p>【基本施策Ⅲ-1】 効率のかつ安定的な収集運搬体制の構築</p>	①家庭系ごみ収集運搬体制の充実	分別収集品目の見直し 【家庭系】
			高齢者等排出困難者への対応充実 【家庭系】
	②事業系ごみ収集運搬体制の充実	収集運搬体制におけるICTの活用 【家庭系】	
		1市2制度の統一の検討 【家庭系】 ■	
	<p>【基本施策Ⅲ-2】 ごみの適正排出の推進</p>	①ごみ排出方法の周知、指導の徹底	一般廃棄物処理業許可業者への指導 【事業系】
			家庭系ごみ排出方法の周知徹底 【家庭系】
			危険物等の適正排出 【家庭系】
	<p>【基本施策Ⅲ-3】 安全・安心で安定的なごみ処理体制の構築</p>	①中間処理施設の適正な維持管理	事業系ごみ排出方法の周知徹底 【事業系】
			北部クリーンセンター(焼却施設、粗大ごみ処理施設)
		②災害に強い処理体制の構築	南部クリーンセンター(焼却施設)
柏市リサイクルプラザ(資源化施設)			
③安定的な最終処分		災害廃棄物処理計画の改訂	
		大規模災害発生時の広域的な相互協力体制の構築	
		災害時等における一般廃棄物処理事業継続計画の検討	
④焼却灰の適正管理	④安定的な最終処分		
	安定的な最終処分		
⑤次期清掃施設のあり方検討	焼却灰の適正管理		
	3工場体制の合理化		
	■		
	次期ごみ処理施設の検討		
	新たなエネルギー施設の導入検討		

6 重点施策の紹介

【基本方針I】3R+Rのさらなる推進

使い捨てプラスチック類の削減【家庭系ごみ対象】 家庭系

「柏市プラスチック・スマート宣言」に基づき、市が率先して使い捨てプラスチックの使用削減に取り組めます。また、その取り組みを市民や事業者で紹介することにより、市全体で**使い捨てプラスチックの削減**を図ります。

使い捨てスプーンやフォークを使わない

→ ごみ減量効果
およそ10グラム/回

マイボトルを使う

→ ごみ減量効果
およそ30グラム/回

詰め替え製品を購入し、容器を再利用する

→ ごみ減量効果
およそ50グラム/回
※某メーカーの洗濯洗剤容器の場合

レジ袋ではなくマイバッグを使う

→ ごみ減量効果
およそ10グラム/回
出典:クルクルクリーンかしわNo.46

食品ロスを含む家庭系生ごみの削減 家庭系

生ごみ処理機補助制度の拡充検討、生ごみ3きり普及、食ロス削減施策検討、**フードドライブ***の常設化検討を検討します。(※フードドライブとは、家庭で余っている食品を集めて、食品を必要としている地域のフードバンク等の生活困窮者支援団体、子ども食堂、福祉施設等に寄付する活動のことです。)

コンポスト EM容器 機械式生ごみ処理機



生ごみ処理容器

出典:クルクルクリーンかしわNo.46



フードドライブ

多量排出事業者におけるごみ減量の推進 事業系

市内の事業所が提出する減量計画書から優良事例を抽出し、啓発チラシやメール配信により水平展開を進めます。



民間事業者との連携による減量化 事業系

飲食店から生じる食品ロス削減のため、賞味期限間近な食品のマッチングアプリサービス提供事業者との連携を検討します。



ごみ処理手数料の見直し 事業系

社会情勢、景気動向を踏まえて清掃工場に直接持ち込まれる搬入手数料の見直しを検討します。



家庭系プラスチック類の資源化 家庭系

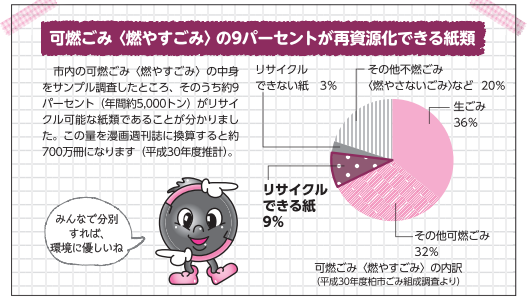
容器包装プラスチックの資源化に加えて、新たにバケツなどの**製品プラスチックの資源化**に向けた検討を行います。

容器包装プラスチック	製品プラスチック
<p>主にプラマークのついているもの(商品・製品を一時的に包装・封入していた袋、ボトル、ラベルなど)</p> <p>【容器】 卵パック、食品トレー、カップ種の容器</p> <p>【ボトル】 洗剤・シャンプー等の容器、食用油のボトル(ガラス以外)</p> <p>【その他】 発泡スチロール、商品のラベル など</p> <p>【袋】 レジ袋</p>	<p>材質がプラスチック素材で、それ自体が製品として販売されているもの</p> <p>バケツ</p> <p>CD・DVD (ケース含む)</p> <p>スポンジ</p> <p>ハンガー</p> <p>ボールペン など</p> <p>まな板</p>
<p>容器包装プラスチック類(プラスチック系ごみ)として排出 お住まいの地域の指定袋に入れて出してください</p>	<p>不燃ごみ(燃やさないごみ)として排出 中身の見える袋に入れて出してください</p>

【基本方針Ⅱ】ごみに関わる多様な主体の連携・協力

家庭系古紙類のリサイクル推進 **家庭系**

ぞつ紙*が可燃ごみに混入して排出されないよう、**分別区分**や**排出方法**等について**情報発信**を行います。
 (*新聞紙・段ボール・紙パック以外の包装紙や空き箱などのリサイクルできる紙を示します。旧柏地域では、雑誌・ぞつ紙として月2回収しています。)



出典:クルクルクリーンかわNo.43

事業系ごみ減量化に向けた効果的な情報発信 **事業系**

多量排出事業者の優良事例を抽出し、中小規模の事業者に対して業種・規模に応じた効果的な情報発信を行います。

3R推進事業所・3R推進店推奨制度の拡充 **事業系**

事業所と市が連携し事業系ごみの減量を進めていくため、「3R推進事業所・3R推進店推奨制度」の活用を拡充し、プラスチック、紙、食品ロスを中心とした取組の実施を検討します。

事業系古紙類のリサイクル推進 **事業系**

3R推進店や多量排出事業者の優良事例を収集し、業種や規模等を踏まえたチラシ配付などによる情報発信を行い、効果的にリサイクルの推進を図ります。

事業系ごみの減量メリット

紙ごみ編

- 経営コストの削減
- 企業イメージアップ
- 従業員の意識改革
- 地球環境の保全

手軽にできる**処理コスト削減**「紙ごみ」に注目

可燃ごみの中に、資源化可能な「紙ごみ」が混入

「紙ごみ」の分別徹底 ⇨ 可燃ごみの減量可能

処分単価は、可燃ごみ > 「紙ごみ」

ごみ処理コスト削減

費用の見える化 ~試算してみましょう!~

市役所では「紙ごみ」の分別徹底により、可燃ごみを約**45%減量!**(前年度比)

以下の仮定で試算 ⇨ どれくらいごみ処理コストを削減できるでしょうか?

■可燃ごみの排出量	年間50t(50,000kg)
■分別徹底後	可燃ごみ:45t(45,000kg) (可燃ごみ:55%削減)
■処理単価(従量制)	可燃ごみ処理単価20円/kg、紙ごみ処理単価6円/kgとする

(現状処理コスト) 可燃ごみ 50,000kg×20円/kg=100万円
 (減量後処理コスト) 可燃ごみ 27,500kg×20円/kg=55万円
 “ 紙ごみ 22,500kg×6円/kg=14万円 69万円

⇩ **30万円/年のコスト削減!**

※個人情報を含む紙類も溶解処理で、燃却せずに資源化可能

環境保護にも貢献

A4コピー紙 13,000枚 ⇨ 植林木 1本分

ムダな紙ごみを減らすことで森林破壊への負荷を軽減させることができます

柏市環境部廃棄物政策課

【基本方針Ⅲ】環境に配慮した安全・安心で安定的な処理体制の推進

1市2制度の統一の検討 **家庭系**

旧柏地域と旧沼南地域で異なるごみの収集・分別の制度の統一に向けて関係機関との検討を進めます。まずは、指定ごみ袋の統一とごみの名称の統一から着手します。



災害廃棄物処理計画の改定

災害廃棄物の円滑かつ安全安心な処理のため、災害廃棄物処理計画と、実務的な手引きを策定しています。今後は、必要に応じて適宜災害廃棄物処理計画等の改訂を行います。

出典:災害廃棄物対策フォトチャンネル
http://kouikishori.env.go.jp/photo_channel



3工場体制の合理化

ごみ処理コストの低減と施設の処理余力を踏まえ、当面は2工場への集約を目指します。



7 食品ロス削減計画

食品ロス削減の背景

食品ロスとは、食べられる状態であるにもかかわらず、捨てられている食品のことで、国では年間552万トン(令和2年度農林水産省・環境省推計)もの食品ロスが発生していると試算されています。

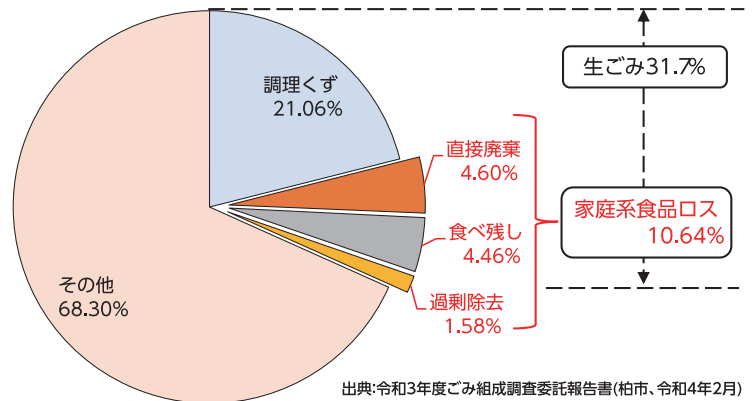
こうした状況を踏まえ、「食品ロスの削減の推進に関する法律」が令和元年5月に公布、10月に施行され、地方公共団体は食品ロス削減推進計画を定めるよう努めなければならないとされています。

柏市の食品ロスの現状

令和3年度に実施した「ごみ組成分類調査」によると、家庭系可燃ごみの31.7%が生ごみで、そのうち「食品ロス」は約10.6%となっています。



食品ロスは、
生ごみの約10.6%を
占めているよ!!



出典:令和3年度ごみ組成調査委託報告書(柏市、令和4年2月)

今後の取り組み

食品ロス削減に向けて、市民及び食品関連事業者等が求められる行動や役割の重要性を認識したうえで、ライフスタイルや事業活動を見直し、双方が協力することが必要です。そのため、市民及び食品関連事業者の意識改革をめざし、食品ロス削減に向けた情報発信等の施策を推進します。

家庭系食品ロス削減に関する取り組み

- 食品ロスを含む家庭系生ごみの削減(重点施策)
- 家庭系ごみ減量化に関する情報発信
例)市民が日常的に出来る取り組みを、市ホームページや広報かしわ、SNS等で情報発信します。



直接廃棄された食品ロス

事業系食品ロス削減に関する取り組み

- 民間事業者との連携による減量化(重点施策)
例)賞味期限間近の食品のマッチングアプリサービスを提供する民間事業者等との連携。
- 事業系食品廃棄物等の資源化



柏市一般廃棄物処理基本計画【概要版】

令和5年3月発行

柏市環境部廃棄物政策課

〒277-8505 千葉県柏市柏五丁目10番1号

TEL 04-7167-1140 FAX 04-7163-3728



柏市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。